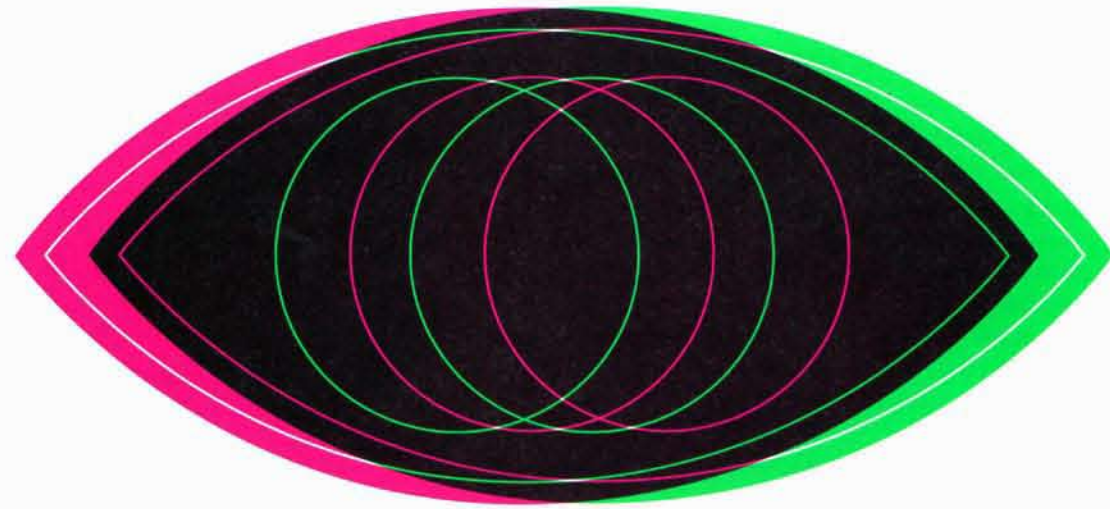




映像工夫館展 3D LOVE ~立体視への招待~ 1993・6・18 fri. → 7・6 tue.

主催：東京都写真美術館／開館時間：午前10時～午後6時（入館は5時30分まで）6月23日（休館）

観覧料：一般・大学生500円（400円）小・中・高校生250円（200円）

（ ）内は10名以上の団体料金／展覧会のご案内：03-3280-0099（テレフォン・サービス）

＜講演会のお知らせ＞

テーマ：「脳内リポート開発のススメ」／講師：赤瀬川原平／日時：6月25日（金）午後3時～5時

会場：東京都庁・都民ホール（都議会議事堂1階）東京都新宿区西新宿2-8-1

平成6年度に「映像工夫館」を併設した東京都写真美術館の総合施設が開館します。「映像工夫館」では、写真を含む映像の過去・現在及び未来を総合的に捉えた展示を行っていきます。

近年、立体映像の手法を用いた作品の発表を行う作家が増えてきています。このような傾向は今に始まったことではなく、映像文化史の流れの中に何度となく登場した歴史的な背景を持っています。19世紀にイギリスでステレオスコープが発明される以前から、人々は遠近法を利用した立体画やのぞき絵（ピープ・شو）を楽しんできました。絵や写真が立体に見える仕組みはその後さまざまな工夫され、現在に至っています。

わが国においても立体視に対する興味は何度か大きな隆盛を見せ、

ステレオ写真だけでなくレンチキュラーやホログラフィなど、そこで用いられた立体視の技法や用途は多岐にわたって発展してきました。本展は、歴史的な立体視作品や資料の展示を通して「3D（立体視）」の概念や技法を示すとともに、現代の作家による3D作品の中に、その表現の可能性を探ろうとするものです。展示やワークショップ、講演会を通して3Dとは何か、どのような表現が行われてきたか、なぜ私たちは3Dに興味を持つのか、また3Dは映像の歴史の中にどのように位置づけられていくのかを考察していきます。

出品作家：赤瀬川原平 石田英範 小田英之 徳山雅記 長久保光弘 中ザワヒデキ パトリック・ボイド 藤本由紀夫＋永原康史 細馬宏通 フィル・マクナリー 他

3Dワークショップ（申込制）

～3Dを探る6つのアプローチ～

様々なアプローチで楽しみながら立体視を考察する、体験的なワークショップです。

アプローチA／ステレオ写真の歴史の変遷（島和也・ステレオ写真研究家）

アプローチB／実践！裸眼立体視（塚村真美・大阪3D協会会長）

アプローチC／3D写真撮影術（三橋純子／関次和子・東京都写真美術館学芸員）

アプローチD／ステレオグラムから脳を探る（細馬宏通・京都大学人文科学研究所研修員）

アプローチE／手軽な道具を使った3D制作（長久保光弘・大阪3D協会会員）

アプローチF／裸眼立体視解体の試み（中ザワヒデキ・美術家）

●日 時：7月10日（土）／11日（日）両日とも午前10時～午後3時

●定 員：40人（原則として2日間連続参加できる人）＊申込み多数の場合は抽選

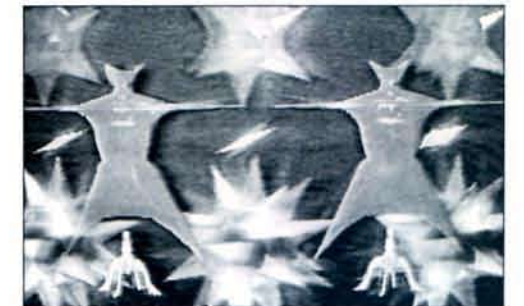
●会 場：東京都写真美術館

●参 加 費：無料（昼食持参）

●申込方法：往復はがきに住所・氏名・年齢・職業・電話番号を明記して郵送

●申込締切：6月26日（土）必着

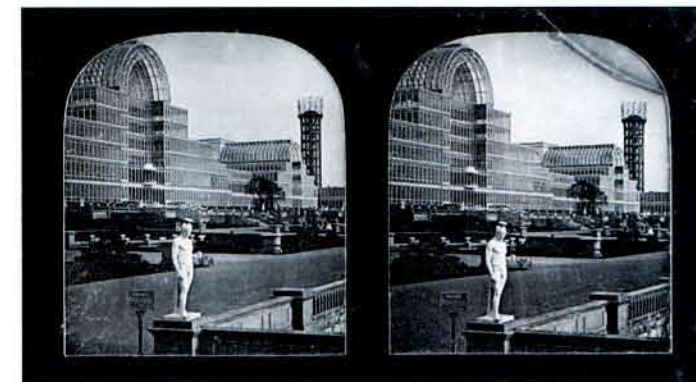
〒150 東京都渋谷区恵比寿4-19-24 東京都写真美術館ワークショップ係



石田英範
Brain Stereo High Vision 1992年



不詳
ステレオスコープ c.1900（収蔵作品より）



ネグレッティ&ザンブラ
クリスタル・パレスの外観 c.1851-3（収蔵作品より）

■フロア・レクチャーのお知らせ

第1回：6月19日（土）／第2回：7月3日（土）それぞれ午後2時より

■次回展覧会予告

「時代をひらいた写真家たち——1960～70年代」会期：7月16日（金）～9月7日（火）



●交通機関：JR恵比寿駅より徒歩5分 ●お車での場合は恵比寿駅より徒歩5分
東京都写真美術館は、平成6年度に総合施設が現在の約7倍の規模で開館します。

東京都写真美術館
Tokyo Metropolitan Museum of Photography
〒150 東京都渋谷区恵比寿4-19-24 TEL.03 (3280) 0031